

俺は活動俳優の一役を演じなければならぬと思つた。

俺は自動車に前方十間の所まで進行して来た時、兩手を擴げてストップを命じた。

そして自動車に向つて走つて行つて『俺を乗せてくれ』と言つた。

運轉手と助手と、中に洋服を着た二人の青年が乗つてゐた。新聞紙に包んだ本みたいなものを持つてゐた。

『何處へ行くのか』

『その向ふの温泉まで、惜切だから駄目だが、まあいゝ』

俺は乗つて了つたのだ。

『御殿場からは汽車に乗れるだらう』

五分ばかり走つた頃だつた。人家も何にもない畑の中だ。

『此處らで好いだらう』

狐色の洋服を着て、運轉手の横に掛けてゐる太い男が目配せした。

自動車はとまつた。